

# 札剣連便り

札幌剣道連盟  
第540号  
<No. 1>  
令和4年1月4日



## 年頭挨拶

札幌剣道連盟会長 武田 牧雄

新年あけましておめでとうございます。

御家族皆様にとりまして、健康で希望に満ち、充実した素晴らしい令和4年の幕開けとなりますようご祈念申し上げます。今年の「寅」年は、厳しさに耐え成長することを表しており、力強さと溢れる自信がかんじられるそうです。

昨年は、令和2年に引き続きコロナ騒動の渦中にあり、世界中を震撼させる事態に陥りました。日常生活にも多大の制約が課され、これらの影響から諸行事等の中止及び延期の他、活動の自粛を余儀なくされました。各種制約の中で稽古を行いました。札幌は蔓延防止や緊急事態宣言の状態となり、生命・身体の安全を確保するため、数回に亘り活動の自粛の止むなきに至りました。

このような厳しい環境の中で、栄花英幸先生の八段選抜優勝、全国杖道選手権では4段、5段、6段、7段で優勝及び準優勝、全日本剣道選手権大会では地白允大選手がベスト8に進出しました。また、高橋勉先生が全日本剣道連盟有功賞を授与した他、高段位の合格者を数多く排出し、暗い世相の中で光明を照らして頂き感動いたしました。

今年は、各種諸行事の適正な推進を図るとともに、令和2・3年に中止や延期になった各種大会など、厳しい状況が続いていましたが、蔓延防止・緊急対策の緩和後は、行事の開催に尽力し、会員各位に夢と希望を与えられるよう尽力致すところであります。また、札剣連の朝稽古は、北海道の中央道場として全国に誇れる稀な文化伝承活動として高い評価を得ており、その適正な運用のため関係各機関との連携・調整を図っていきます。

会員の皆様には、新型コロナウイルス新変異株のオミクロン株が世界的に拡大し、戸惑いがありますが、「感染拡大ガイドライン」の遵守と各自の安全意識を高め、稽古環境等の整備と感染拡大防止へ最大限の注意を喚起した諸活動等の適切な運営の推進が札剣連の使命であると思っております。更に、今だ終息の見通しのない先行き不透明な厳しい諸情勢の中で、人間形成と生涯剣道を実践していく為には、今だ正念場であり現状を見極め、新たに派生する諸問題に的確に対応すべく、三道（剣道・居合道・杖道）及び区剣連が一体となった適正な業務推進を図ります。

最後に会員の皆様にも、諸活動の推進についてご理解・ご協力をお願いするとともに、区剣連の隆盛と会員・家族様のご健勝を祈念し年頭のご挨拶といたします。



## 称号・段位合格者

《称号の部》 11月23日付 東京

剣道教士

関口 勇次（東区）	鈴木 謙治（東区）
岡田 明（北区）	関口 瞳（豊平区）
佐野 学志（北区）	松田 直紀（清田区）

剣道錬士

平田 基洋（東区）	西川 圭輔（中央区）
佐々木 寛行（北区）	内山 菊一（清田区）

居合道錬士

伊原 由紀（北区）

《段位の部》

剣道七段（11月13日付）愛知

林 豊大（清田区）

剣道六段（11月14日付）愛知

安藤 翔（南区）	岩崎 雅博（西区）
西田 岳史（北区）	坂井 祐子（中央区）

剣道七段（11月23日付）東京

小田 直紀（南区）	能町 浄彦（南区）
熊谷 健（南区）	

剣道六段（11月20日付）東京

東谷 治人（白石区）

居合道六段（11月7日）東京

丸岡 則行（北区）	前田 美鈴（豊平区）
-----------	------------